

「通信制高校」は必要？ 「高認」とどちらを選ぶべき？

チア・にっぽん代表 稲葉 寛夫



最近、ホームスクーラーご家族から、「通信制高校」「高認（高卒認定試験制度）」「大学進学」についての問い合わせが増えています。

進路は、それぞれにメリット、デメリットがあります。導きの中、自由に選んでください。通信制高校は、必ず行くべきということでもありません。一方で、良き助けとなる面もあり、与えられたチャンスの一つとして、注意深く活かしていくケースもあると思います。

チア発足後、約 24 年。ホームスクーラーの多くの先輩たちは、「高認」のみで進み、医師、弁護士、裁判官、上級国家公務員、教師などに導かれてもいます。一方で、通信制高校に通い、学習面や推薦入試等で活かすケースも少なくありません。

チアとしては、「形より本質！」で、ホームスクーリング一本で進むのもいいし、あるいは、いくつか注意点を考慮しつつ、通信制高校を用いてもいいし、どちらでも、それぞれの導きによって、形にこだわらず本質を歩

まれては…と思っています。

「本質」、つまり聖書・ホームスクーリングマインドに立って、学校任せにせず、親が責任を持ち、心と時間を尽くし、神さまの導きと思われる道を進んでいくのが良いのではと考えています。大事なことは、ホームスクーリングの理念と心をしっかりと持ち続けること。

とはいえ、基本情報等も含めて、お伝えするニーズも感じています。ご参考までに、このテーマに沿った実際のやり取りを伝えますね。

よくある質問

Aさん「今、高校段階のホームスクーリングを、どのように続けるか悩んでいます。通信制高校、サポート校（通信制高校と連携し、その高校の卒業資格取得をサポートする一般のフリースクール、チャーチスクールへの入学等）などの情報が届きますが、どうしたらいいでしょうか」

Bさん「通信制高校に行きながら、ホームスクーリングを続けようと思います。どの通信制高校がいいでしょうか」

Cさん「大学はアメリカ留学を考えています。アメリカの通信制高校（カリキュラム）を取ることは、アメリカ留学、あるいは日本の大学進学にメリットがありますか」

Dさん「高校段階は通信制スクールに入らなければならないでしょうか」

Eさん「通信制、あるいは全日制高校に進学する場合、気を付ける点は、どのような点でしょうか」
といった質問が、続いています。

私は、これまでの情報収集や24年間のチアでの体験をベースに、以下のように回答しています。まだまだ不十分な面もありますが、参考情報としてお伝えします。また、次世代のために、皆さんの声や情報をチアにも寄せていただければ幸いに思っています。

① 高校でもホームスクーリングを進めたいです。通信制高校に行かなければなりませんか？

「通信制高校は必ず行かなければならないということではありません。メリットもあれば、デメリットもあります。この24年間、ホームスクーラーの多くの先輩たちは『高認（高校卒業資格認定試験制度）』のみで、大学や就職に進むケースが多かったです。高認合格を経て、その先に進み、医師、看護師、柔道整復師、弁護士、裁判官、上級国家公務員、公認会計士、航空整備士、建築士、教師、社会福祉士…といった各資格試験に合格され、それぞれ活躍されています。現在、日本のすべての国公立大学は、『高認』卒で受験できる制度となっています。上記の資格試験や就職も、制度上「高認」であることは障害となりません。もちろん、筆記や面接試験等を突破する努力と実力を養うことは必要です。しかし、制度としては高校（全日制、通信制）の卒業資格は必要なく、ホームスクーリングを継続したまま『高認合格』で道は開かれています。ですから、『通信制高校に行かなければならない』ということはありません。まず、その認識が大切になってきます。

② 「通信制高校」のメリット

主なメリットとして以下の点が考えられると思います。

メリット 1：課題があると、勉強のリズム・習慣が付きやすいタイプのホームスクーラーにあう

ホームスクーリングの「自学自習」スタイルだけでなく、準備されたカリキュラムや課題があった方が、勉強のリズムや習慣が付きやすいというタイプの皆さんには、メリットがあると思います。

メリット 2：わからない場合、メール等で質問できる

わからない問題等があった時に、メール等で質問等ができるメリットもあります。参考書等を見てもわからない時に、まず親に聞き、それでもわからない場合は誰かわかる人に聞いたり、図書館やネットで調べたり、という大学や社会でも生きる姿勢です。ホーム

スクーラーのメリットの一つである、自発性、自主性を伸ばす力になっていきます。通信制高校の場合は、さらに質問ができる先が一つ加わるというメリットがあります。

メリット 3：推薦枠で大学を受験できる

大学受験に推薦枠で挑戦でき、合格・進学しやすいというメリットもあります。もちろん、日ごろ真面目に取り組み、良い成績を積み上げ、内申点を上げる必要はあります。通信制の場合、全日制の中間・期末テストの一発勝負的な評定とは違い、しっかりレポート・提出テスト等に取り組み、良い成績・内申点はとりやすい傾向があると思います。

ただし、推薦制度は、どこの大学、学部にも適用されるわけではないので、そこは希望する通信制高校が、どこの大学・学部への推薦が可能なのかチェックする必要はあると思います。

サポート校の場合は、通信制高校と状況が異なる場合もあり、どれだけの大学の推薦枠が、そのサポート校の卒業生に実際に用いられたかどうか事前の確認が必要です。

ニュースレター 188 号 30 ページで掲載した H さんも、通信制高校（N 高）から推薦枠で受験し、合格したケースです。記事でも触れましたが、H さんの場合、担任の先生は最初、「推薦は出せるけれど、難関過ぎて無理だろう」とアドバイスしたそうです。しかし H さんは努力を重ね、推薦枠で受験し、小論文や面接試験に挑み、見事に合格に導かれました。

「I さんの娘、J さんも通信制高校（NHK 学園）を選びました。I さんは、働きな



がら3人の子どもたちをホームスクーリングで育てていました。「外で働きながら3人のティーンのホームスクーリングは難しく、高校レベルは通信制高校のサポートを受けたい」とのことで選択されました。」さんは、推薦枠で市立の看護学校に合格し、今は看護師として活躍しています。

メリット4：スポーツ等を通して神さまの栄光を目指せる

神さまからスポーツ等で証ししていく志を与えられているホームスクーラーの場合、通信制高校が適した環境となっている事例もあります。高校レベルとなれば、個人資格や、学校以外のクラブ所属では出場できず、高校への所属が必要な大会等が多いです。そのため、以前は、ホームスクーリングを中学までで断念し、全日制の高校に進み、ホームスクーリングマインドで育てながら進むか、あるいは競技を断念して、ホームスクーリングを継続するといったケースがありました。

全日制に進んだケースの場合、後になってから「高校時代も、ホームスクーリングを続けた方が良かった」とコメントを寄せられる保護者の皆さんも多いです。

そうした中で、通信制高校に所属し、ホー

ムスクーリングをベースにしながら、各大会や団体競技等、継続できる道も近年増えてきました。本号の巻頭言10～11ページにレポートした我が家の第三子のジョセフ（16）の事例（目黒日大高校通信制芸能&スポーツプロフェSSIONナルクラス）も、その一例です。

通信制高校のデメリットや危険性

デメリット1：親が学校任せとになってしまう危険

ティーンになると、子どもの自立・独立性を尊重する度合いも増してきます。一方で、まだまだ幼い面もあり、誘惑やリスクも増え、ますます時間とエネルギーを注ぎ、きずなを深めていく必要も増してきます。通信制高校とはいえ、これまで学校任せにはしないと強い心、使命感で祈り育ててきた心が薄れ、親が「学校任せ」に戻ってしまうリスクがあります。

デメリット2：友達・教師・SNS等からの悪影響に気をつけて！

通信制とはいえ学校であり、友達・教師の



影響を受ける場面は確実に増えます。もちろん、良い影響もあるでしょうが、「神を愛し、親・隣人を敬う」といった真理とは異なる影響の方が圧倒的に多い環境です。SNS等の影響や男女関係の問題にもつながってきます。パワハラ・アカハラ、いじめの問題も出てきます。

全日制に比べると、教師や生徒との接点は少ないでしょう。しかし、それでも、週に数日の通学がある場合、カリキュラムや学校のイベント等を通しての影響は小さくありません。

聖書はどのように教えているのでしょうか。友達関係に強い警告を発しています。「思い違いをしてはいけません。友だちが悪ければ、良い習慣がそこなわれます」(1コリント 15:33)

子どもたちを委ねることになる教師についても、警告を与えています。「盲人が盲人を案内できるでしょうか。二人とも穴に落ち込まないでしょうか」(マタイ 6:39)

もちろん、友人たちや先生方への愛情と敬意を持ち、また福音を語り、祝福を祈ることもできます。ただし、良い友達もいれば、悪・欲望に引っ張って行く友達もいます。素晴らしい先生もいれば、そうでない先生もいます。ミッション系であろうとなかろうと、学校であれば、先生やクラスメートは選べません。聖書が発する警告ポイント、友達・教師といった人間関係について、注意が必要です。

デメリット 3：親子関係よりも学校組織が主体となってくるリスク

学校とは、子どもたちの育成をサポートするために、良きものとして創設されたはずで、しかし、いつしか学校が主人公となり、学校を中心に判断し、組織やスケジュールに従い、誤った方向にいく危険性もあります。

私自身、長男真祈史(現在 32 歳)の通信制高校との関係において、その間違いを犯してしまったことがあります。これは、アメリカ留学を考えている方への情報にもなると思いますので、少し長いですが分かち合わせていただきます。

2011 年秋、真祈史は、ホームスクーラーの弁護士たちによる「ホームスクーリング法的擁護協会」(HSLDA:所属会員約 10 万家族)が設立した、パトリック・ヘンリー大学 (PHC, バージニア州) に合格しました。この大学は、ホワイトハウス・上下院等でのインターン数が全米トップ、全米ディベートコンテストの連続優勝等が続き、FBI や CIA のエージェントとなる学部もあり、選抜は厳しいです。真祈史や私にも、面接官が 3 度、東海岸のバージニア州から西海岸のロサンゼルスまで、飛行機で 6 時間かけてやって来て調査を重ね、その上で合格となりました。

入学して 3 ヶ月後、真祈史が 2 年間ほどお世話になった通信制高校の校長からメールが届きました。「我が校が仮の卒業証書を出して PHC 大学に受かったけれど、その後、我が校の卒業には単位が 2 つ足りず、正式な卒業証書が出せないことが判明した。大学を中退して、我が校の 2 つの単位を取るよう」とのメールでした。

今思うと失敗なのですが、私は自分で十分調べることをせず、校長の指示を鵜呑みにし、その指示に従ってしまいました。真祈史は、既に充実したキャンパスライフを送っていたのですが、急きょ休学届を出して、失意の中でロサンゼルスへ戻ってきて 1 年過ごします。後になって、通信制高校の校長が強圧的に迫ってきた高校の卒業証書などは、大学入学にはまったく必要なく、留年する必要も無かったことがわかりました。

今、考えてみれば簡単なことです。パトリック・ヘンリー大学はホームスクーラー率が 8

割の大学で、ホームスクーラーをサポート・育成する基本理念で設立された大学です。真祈史は3度の面接と全米共通テスト (SAT) の成績や小論文、推薦文等で合格し、また我が家のホームスクーリングの高校課程は全うしていました。その過程で、学力面を約2年、サポートしてくれた通信制高校には感謝ですが、単位不足はパトリック・ヘンリー大の可否には本来まったく関係ないことでした。ほとんどの学生は、通信制高校に通っていないホームスクーラーなのですから。

真祈史の通信制高校はクリスチャンが経営し、ホームスクーラーを助けるという理念で展開していると聞いていました。しかし、その高校や校長は、理念を見失っていたのか、大学入試の基本を認識していなかったのか、「卒業資格は出せません」、「大学に正式に合格し、大学生活を継続するためには、一度、大学を辞めて、私たちの高校の2単位を取りなさい」という命令を出したのです。

つまり、通信制高校がいつしか主人となって、誤った指示を出し、私は「学校任せにしない」という理念を忘れ、よく調べて理解しないまま、学校の指示を鵜呑みにして従ってしまいました。

アメリカの大学： ホームスクーラーは、 親が内申点を作成・提出で OK !

その後、大学入試制度をもっと調べる必要を感じ、深く調査しました。すると調べた限りでは、アメリカの州立、私立の全大学で、高校の卒業証書は不要であることがわかりました。カリフォルニア州では、ホームスクーラーは法律的に一つの学校として位置付けられています。我が家は「Chea Japan School LA 校」と名前をつけて、親が内申点をつけて提出しました。アメリカでは、約300万人

がホームスクーリングを選択していますが、ほとんどは、いわゆる校舎のある高校の卒業証書を持たず、ホームスクーリング（あるいは、その家族の学校）で高校課程を終えたということで、大学等を受験しています。合否は、内申点ではなく、ましてどこの高校卒業かではなく、SAT（全米共通テスト）の成績や小論文の成績、入学志望書等で判定されることがわかりました。

「内申点は親が2分で 書きなさい！オール5でOK!」 ジム・ストーバー博士

チア・コンベンション2014の講師だったジム・ストーバー博士は、アメリカの大学入試の専門家です。ストーバー博士は、ハーバード大学を卒業後、SATの採点官等を経て、アメリカのアイビーリーグ系の難関大学のスカウトとして全米をまわっているホームスクーラーで、いわばアメリカの大学入試のプロです。

チア・コンベンションでストーバー博士も言いました。「高校卒業証書はいらない。内申点等はまったく心配いらない。親が2分で書きなさい。ホームスクーリングで勉強したなら、全部A、オール5をつけていいです。大事なものはSAT（数学、小論文等）の点数。数学、小論文の実力をつけ、事前に何回も受けられるから、何回も受けて、希望する大学合格への十分な点数を取ればいい。あとは志望動機書・推薦書などをしっかり準備してください」

実際に2015年、長女のエミリ（現在、26歳）の大学受験で実行してみました。私は1分でオール5の内申書を作りました。SATや小論文、志望動機書、推薦文等は、じっくり準備しました。その結果、クリスチャン系大学を3校受けて、3つとも合格できました。エミ

リが最終的に選んだのは、地元ロサンゼルスにあって、本人がやりたかった映画制作&メディア学部のあるバイオラ大学です。(エミリは、通信制高校には行かず、ホームスクーリングのみです)

こうした経験からも、アメリカでは高校の卒業証書や内申点は必要ないと言うことができます。

主客転倒のワナに陥らないで！ 一人の失敗した親より

幸い神さまは、私の判断ミスも含め、「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となる(ローマ8:28)」ことを導かれる方です。真祈史は復学し、大学を5年かけてエンジョイして卒業。今は、バージニア州の郡役所に就職し、本人

が願っていたサイバーセキュリティ課の課長として励み、妻レイチェルと一緒に、長男真祈夫(マキオ)の子育てに夢中という、神さまに感謝する日々を送っています。当時を振り返って、真祈史は次のようなコメントをくれました。「予期せぬ厳しい経験ではあった。でも、この期間、自分の人生において何が大切なことなのか、自分は日々どうするべきなのか、じっくりと考えることができた。それは、復学してからの大学生活にも役立ったし、その後の人生に役立っていると思う。失敗とは言えるけれど、神さまはそれをも用いて自分の人生に益としてくださった。神さまの計画だったのだと思っている。」

それで、私も上記の私の失敗談を分かち合うことができます。また、真祈史の時の失敗のおかげでエミリや日本の皆さんに、よりの確な受験情報や対策等をお伝えする道が開かれていくこととなりました。



日本では学校などに所属した場合、「卒業証書」「推薦入学」「内申点」「受験資格」等と差し替えに、様々なルールや指示には従わざるをえない面も出てくると思います。

上記の通り、日本でも「高認」を取れば、受験資格は高校に行かなくても取れます。筆記試験等の実力を養えば、合格できます。

通信制高校やサポート校を選択した場合は、主客転倒のワナに陥らないように、とりわけ気を付けて進んでいただければと、「一人の失敗した親」として祈ります。

もちろん、通信制高校やサポート校の様々なメリットもあるわけですから、注意点を心に留めていただければと願うわけです。

デメリット 4：推薦入試、難関大学をゴールにするリスク

推薦入試は、通信制高校の武器だと思えます。一発の筆記試験と違い、通信制高校に行く大きなメリットの一つとも言えます。とはいえ、そこがゴールのように見えてくるとリスクが生じます。

通信制高校（NHK学園）に進んだK君は、難易度が高く、人気のあるミッション系のL大学に推薦合格しました。その大学は、高認での推薦受験は認めていないので、通信制高校のメリットを活かしたケースといえます。

ただ、卒業後、K君は小さなころからの夢だった職業を選びました。お母さんは、「せっかくL大学に行って、何だったのか」と笑って話してくれました。それは、必ずしも大学進学は必要ない職業だったためです。私は、K君が幼いころからその仕事に就きたいと言っていたのを覚えていました。

それでK君のお母さんにこう伝えました。「小さいころも中学時代も、ずっと変わらなかった夢がかなって、良かったではないですか！ 本人が喜んでいて、それが最高だと思

います。この仕事を通して、神さまのすごい栄光が現れるのではとも感じます。すべてが益と変えられるから、大学生活もきっと益と変えられると思います」と心から伝えました。

大学に入って苦難と闘っているホームスクーラーの子どもたちもいます。大事なことは、多くなく、一つであるとの御言葉を掲げ続け、天国に目を向け続けて歩いていければと思います。

高認は難しくない！

「高認」は、受験者を落として選抜するための試験ではありません。しっかり勉強・準備すれば合格できる、また資格を提供する日本政府としても、一人でも多く合格させたい目的の試験です。

それは自動車免許に似ています。不登校の子どもたちが自信を失って、引きこもりで苦しみ続けるのではなく、資格を与え、将来の道を開く一助となり、将来、社会や人々に貢献してもらおうという趣旨で設けられた試験です。

自動車免許試験も準備なくしては受からないですが、準備をすれば受かります。「高認」も何度も受け直すこともでき、その時受ける受験科目数も自分で選択できます。「高認合格」は準備さえすれば簡単です。

どこの通信制高校がいいか

通信制高校には、大手（N高、S高、NHK学園、トライ式ほか。たとえばN高は、生徒数1万人を超える）や、全日制高校に付属した高校（東海大系列、日大系列、日本航空系列、公立校等）、小規模、中規模の通信制のみの高校等があります。また、通信制高校と連携し、そこに通う生徒を補助するサポート校があります。チャースクールがサポート校の

展開をしているケースもあります。

大手であれば予算額が大きく、教師、カリキュラム数は広くそろえることはできる傾向はあると思います。校風・カリキュラム等は学校によって大きく異なり、N高であればカドカワ、NHK学園であればNHKが設立者であり、その理念が校風やカリキュラムに反映されると思います。小規模・少人数の高校ならではのきめ細かい対応をポイントにしている高校もあると思います。

大手であっても、小規模であっても、生徒のために命がけで取り組んでいる経営者や先生方はおられると思います。神さまのために、次世代のために身と心を尽くしておられる先生方もおられると思います。

どの通信制高校が良き環境なのか、一人ひとりの子どもさんのタイプやニーズによっても異なります。幸い、通信制高校の選択肢は増えています。東京都の今春の通信制高校への進学率が13%、途中からの転入生を加えると、もっと大きな数字となって増えています。そのような、時代の大きな変化もあります。

神さまに祈り、ご家族で、情報をよく吟味され、見分けられ、ホームスクーリングフルタイムにするかどうかも含めて、最善の環境を発見されていかれることを祈ります。

全日制高校に付属した通信制高校の場合は、より学校に近い雰囲気の開拓となるケースも多いと思います。同じ高校の通信制課程でも、コースによってカリキュラムや雰囲気が変わります。たとえば、目黒日大であれば、大学受験を目指すアドバンスコースは、週2日登校・制服ありですが、芸能・スポーツプロフェッショナルコースは2週間に約半日登校、制服不要です。

学費は学校、コースによって大きく異なります。通信制高校の場合は、高校生への国からの学費補助で半分ほど賄えるケースが多いと思います。自治体からの支援金が出ている

地域もあり、場合によっては、学費は全額無料となっている地域もあります。

予備校・塾等の 通信制プログラムの利用

学校に所属するのではなく、予備校・塾でのオンラインプログラムで学習を進める方法もあります。全科目ではなく、数学・理科・英語のみとか、自分の不得意科目や将来の高認や大学受験科目のみに絞り、学習を進めることができます。

たとえば、今、人気の高い「東進ハイスクール」等は、事前収録された授業を自宅のネットや予備校の教室のPC等を用いて、個人で学習します。つまり、家でホームスクーリングしながらできます。講師陣は、全国トップレベルと評価された方々を選抜・ヘッドハンティングし、ビデオ収録し、評判・実績等チェックしながら行っているため、比較的、教え方がうまい講師陣がそろっている点等が高い評価のイメージとなっています。担任制を用いて質問等できるようにしながらも、実質、ほかの生徒等との交わりはなく、悪影響等、上記のリスクは少ないとも言えます。

ホームスクーラーママOGのギンター千為子さんが行っている、国語のオンラインクラスもあります。

オンラインクラスであっても、指導者のパワハラ等の報告もあり注意は必要です。一方、小規模塾等でも、先述の通り献身的な名教師もおられますので、保護者による良き吟味は、ここでも求められます。

以上、「通信制高校か、高認か？」の大枠の情報をお伝えしました。不十分な点等があると思いますので、ぜひ、皆様のご意見、ご質問を寄せてください。神さまに導かれた、どんな選択をされても、チア・にっぽんとしては皆さんを応援します。